



# すまいるだより

## 「ほめすぎ」と「怒りすぎ」

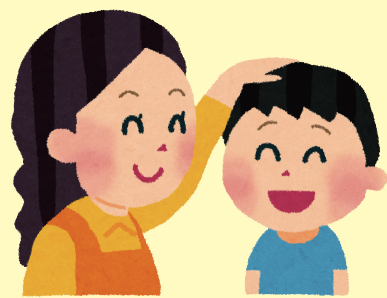
### vol 2

【子育ての「相談」】  
子育て世代包括支援センター  
「えがお」(健康福祉課内)  
電話 0241(62)6170  
メール egao@ninanai-zu.org

**み** なさんこんにちは。子育て世代包括支援センター「えがお」には、日々子育てに奮闘されているお母さん方から電話やメールの相談が入ります。

**相** 談の中には「おねしょが続いて心配」「ことが遅い気がする」「保育所に行きたがらない」「兄弟げんかが激しい」などなど、日々の子育てで感じる不安を教えてください。

**今** 回は、改めて「ほめる」ことについて考えてみましょう。



**こ** こ数年、ほめて伸ばす子育てのハウツー本がたくさん出版されています。一方で、マナーを守らない我が子に「しかる」ことができずに、悩んでいるご家族がいることも話題になる場面を耳にします。

では、「しかる」と「ほめる」ことはどちらがよいのでしょうか。専門家の著書や講演会では、「過剰にほめる」「過剰にしかる」ことは同じことであると認識されています。

周りの大人は、一般的に子どもに対して期待をするものです。親御さんや社会は、自分たちが望むような子どもになってほしいと誰もが思います。しかし、その程度や内容が大切とされています。

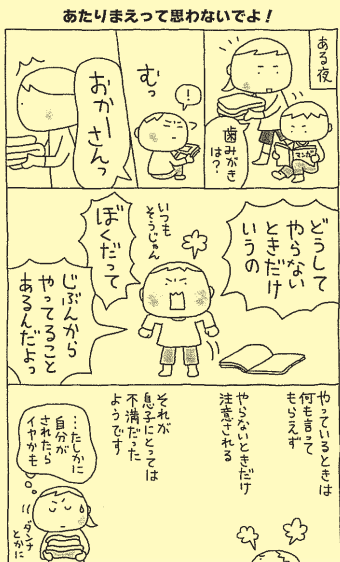
**例** えば、ほめるときに「大人(親や先生)の望むような行動(やってほしいこと)をしたときだけほめる」ことが続いてしまうと、ほめる人の前ではちゃんとやり、ほめられないとやらないとなってしまうことがあるということです。これは叱ってばかりのときも同じということが分かります。

**本** 来、子どもが望んでいることとはほめられることではなく、見てもらうこと。だとすれば、その気持ちに応えるには、無理やりほめるのではなく「うん、見ているよ」「できたんだね」と行動を認めるだけでよいのです。

**子** 育てに正解はなく、ほめること一つをとっても、迷うことや悩むことの連続です。困ったときの相談先のひとつとして、「えがお」を思い浮かべていただけたらうれしいです。

**ま** た、今回のコラムの参考となった図書は、町の図書館でも手にとることができまので、機会があればお立ち寄りください。

### ※参考図書より



題はつい「ほめる」に意識がいきませんが、それよりも子どもは「あなたに關心を寄せているよ」と伝えてほしいようです。子どもの自分ごとを見てくれる人がいると安心します。日常のことも、あたりまえと思わず「できたね」「終わったね」と、やっているときに声をかけましょう。